

# 2017年度実施「学生による授業評価アンケート」自由記述欄の意見・質問等への回答

## (日本文化学科)

はじめに

日本文化学科の学生の皆様、「授業評価アンケート」へのご協力、誠にありがとうございました。皆様からの意見や指摘については、私たち日本文化学科の教員も真摯に受けとめ、授業の質を向上させるよう努めていきます。

皆様の質問の中には、施設に関するもの（駐車場、クーラー等）、授業以外の大学サービスに関するもの（図書館、事務窓口対応、施設開放時間）も含まれていましたが、これらの要望については大学の各機関からの回答がありますので、ここでは日本文化学科の授業やカリキュラムに関する要望を中心に、皆様への質問に回答します。

### 1. 授業評価アンケートについて

<不満> 「授業についてのアンケートは、どの科目でも強制的に行ってほしいです」(多数)

昨年度、前期・後期を通して、非常勤教員については、オムニバス科目担当者を除いては全員が実施、日本文化学科専任教員でも全員が実施しています。ただし、全ての科目でアンケートを実施しているわけではありませんので、以上のような要望が寄せられたのだと思われます。本来は全教員が全担当科目でアンケートを実施するべきだと思いますが、授業時間の進行上の都合や、授業の特性を考慮して、全科目での実施を義務付けるルールがない現状です。

授業への要望については、授業評価アンケートだけでなく、学科長やアカデミックアドバイザー、学年主任を通して対応することも可能ですし、他の科目で実施されるアンケートの「自由記述欄」に、具体的に科目名を挙げて改善点を記載してもらえれば、学科として対応したいと思っています。気兼ねなく皆様の意見を伝えていただければと思います。

<不満> 「講義を終えた後にアンケートがとられますが、それでは生徒の意見が次回からしか反映されないので、学期の半ばに実施してほしいです」

<不満> 「先生を雇う前にわかりやすい講義ができるか審査して欲しい。単位が取りにくいのは別にいいが、身になるかどうかは別問題になってくる」

授業は「15回」を通して「1つ」のプログラムとして成立しますので、授業を通してどのような力が身についたかを問うような設問について、授業期間の途中で評価を学生の皆さんにお願いする、ということは基本的にはできません。ただし、黒板の文字が読みづらい、先生の声が聞き取りづらい、といった、授業の運営方法について、学生のみなさんが改善を求めているよう場合には、授業の途中で教員が把握した方がよいこともあるでしょう。そうした場合は、授業後に先生に直接伝えてみるか、または学科長・アカデミックアドバイザー、学年主任等に相談してみてください。

また、この件について、学科会議で話し合ったところ、声が聴こえづらい・黒板が見えづらい⇒前方に座ればよい、PowerPointのスライドを配ってほしい⇒メモを取るものも学習の1つ、というように、各先生の授業スタイルや教育方針としてあえて取り入れていることへの不満も寄せられている、という声も上がりました。学生の皆様がいま感じている授業への不満の中には、授業の受け方をすこし工夫するだけで解消できることもあるのではないのでしょうか。これをきっかけに、学生の皆様も自分自身の学習態度を見つめ直してみてください。

### 2. 時間割・授業登録について

<不満> 自分の学科以外の先生のゼミも受けられるようにしたらいいな～。

“他学科のゼミも受講したい”という熱意は、大学生として大変素晴らしいことだと思います。沖縄国際大学では、他学科のゼミでも「自由選択科目」として登録され、単位も取得できますので、時間割の調整さえできれば、登録そのものは不可能ではありません。受講したいゼミがあれば、自ら研究室を訪問して受講への熱意を伝えるか、または、アカデミックアドバイザー、学年主任、学科長に相談するようにしてみてください。

ただし、他学科のゼミを受けて、日本文化学科のゼミに読み替える、ということは認められません。日本文化学科には他学科とは異なる独自の「ディプロマポリシー」という卒業認定要件があり、その中には、日本文化学に関する専門知識を身に着けることが含まれています。まずは日本文化学科のゼミで専門性を高め、その上で、他のゼミで幅広い教養を身に着ける、と考えてみてください。

<不満> 必修をなくしてほしい。

日本文化学科の必修科目は1年生を除いて、2年生以降はゼミナール関係の数単位だけで、それほど多いわけではありません。また、1年生の基礎科目（「日本文化論」「琉球文化論」「文化情報処理入門」等）も、上記に示した日本文化学科のディプロマポリシー

を実現する上で必須の科目として必修科目に位置づけられています。例えば、「文化情報処理入門」では、アカデミックスキルの基本であるPC操作や図書館の活用法を学びますし、「日本文化論」、「琉球文化論」は、2年生から始まる各コースの専門科目の基礎概念を確実に身に着けるための科目となっています。当然、学生のみなさんにはそれぞれの科目の大切さが伝わっているとこれまで考えていましたので、こうした意見が出ることは非常に残念ですが、それと同時に、学科として、改めて必修科目の重要性を学生の皆さんに伝えると同時に、その内容のレベルアップをしたいと思います。

<不満> 単位の取得制限をなくしてほしい。

大変向学心があってよいことだと思いますが、登録単位数が増えるほど、1つ1つの科目への取り組みがおろそかになり、得られるものが少なくなることもあるでしょう。また、学生時代には、正課内の活動だけでなく、サークルやボランティアなどの正課外の活動を通して人間的に成長していくこと、視野を広げ将来のビジョンを定めることも重要です。そのための登録制限と考えてみてください。あまり焦らずに、1つ1つの授業を大切にしつつ、ゆとりある時間を使って、素敵な大学生になってほしいと思います。

### 3. 資格科目について

<不満> 図書館司書と学芸委員の資格科目の講義が、重なっていることが、多々ありますので、重複しないように改善していただければいいと思います。

資格科目の時間割は、必修科目等に影響が生じないように、5・6時間目という時間が当てられています。ただし、資格科目の全てを5・6時間目に設定すると、資格科目同士の重複が生じてしまい、学生のみなさんに不利益が生じるため、一部の科目を1～4時間目までに入れるようにしていますので、上記のような不満が生じるのだと思います。司書課程と学芸員課程を同時履修している日本文化学科の学生は多いと思いますが、2つ以上の資格を同時に取得する場合はどうしても科目の重複は生じますので、慌てずに卒業までに履修する、という気持ちで計画を立ててみるようにしてください。

その上で、どうしても科目の重複が解消できず、卒業までに資格取得のための科目登録ができない状況になりそうな場合は、司書課程では毎年11月頃、次年度の時間割を配布して受講に問題が生じないかを確認していますので、この機会を利用して司書課程主任に要望を伝えるようにしてください。

<不満> 資格科目の単位数をなくしてほしいです（もっと気軽に挑戦できるので）それか、ちゃんと資格（免許）が取れたらお金が戻ってくるという制度を教職などにも取り入れてほしいです。（同内容の不満はほか3名からも）

同じような要望が多数から寄せられたということは、資格課程の受講に金銭的な負担が大きいのだと思います。ただし、皆さんが支払っている授業料は入学した学科の専門科目に対するものとして納入されるものです。資格課程は学科カリキュラム等に付置されたものなので、別途単位数が発生する仕組みについては、全学科同額として、平等性を保つためにも必要な制度でもあります。また、本学のキャリアサポート支援制度は、授業を受けた後の（授業に関連する）資格取得に対する保証であり、授業を受け、単位を取ることによって資格・免許を取得できることに対する保証とは別のものであると考える必要があります。日本文化学科に関連の深い資格科目（司書、日本語教師など）は、気軽に挑戦できるよう、導入科目については学科の専門科目と重ねて料金を徴収しないようにも工夫していますので、この点もご理解ください。

### 4. 授業の運営方法について

<不満> 先生の都合で休講にしたのに、補講期間過ぎて夏休み中に補講を入れるのはおかしい。

授業を担当している先生も生身の人間なので体調不良等により休講が生じるのは仕方のないことです。ただし、だからと言って、全員が受講できる保証がない夏休み中に補講を実施したり、テストを実施したりするのは学生の皆さんにとって不利益になると思われます。本学は休講による補講期間が実質的にテスト期間と重なっているため、休講分の補講やテストが夏休み期間中にずれこんだりすることもあるようですが、そうした場合も、学生が不利益にならないよう（別の時間にテストを実施する、補講を個別に行うなど）、学科内でルールを定めて対応したいと思います。もし、前期・後期の科目でそうした事情が生じた場合は、すぐに学科長に相談して下さい。

<不満> 授業中にスマホをいじっている人が多いような気がします

日本文化学科の学生の皆さんは、他学科の先生からも、真面目で熱心、という評判をよく耳にします。皆さんの授業態度については学科内では今のところ大きな問題があるようには受け止めていませんが、先生たちが見えないところで、スマホを操作したりする学生もいるのかもしれない。授業時間中のスマホ操作については、これから社会に出ていくためのマナーとしても、他の学生に迷

惑をかけないからよい、ということはありませんので、前期・後期のオリエンテーションで注意を喚起したいと思います。

<不満> 講義に関する資料なら、無料でコピーできるようにしてほしい

授業で配布するレジュメ等については印刷室でコピーができますので、上記の質問は、それ以外の、例えばゼミ発表等で必要となる、図書館資料のコピーのことなどを指しているのかな?、と思います。確かに、学生の皆さんの経済状況によっては、コピーの負担が大きく感じることもあるでしょう。著作権法上、図書館から借りた本をスマートフォンなどで撮影したり、PC教室のスキャナでUSBに取り込んで個人的な勉強に使うだけならば特に問題はありませんので、まずは身近な電子機器を活用してみる工夫をしてみてください。また、3年生以降のゼミ発表で多くなる図書館資料のコピーについては、ゼミ担当教員(アカデミックアドバイザー)に相談してみてくださいもよいでしょう。教員は年間3000枚までコピーできるカードを所持しています。ゼミ発表は教員と学生の共同の研究でもありますので、個人の事情に応じて、コピーカードを使用できるように配慮したいと思います。

## 5. 留学について

<不満> 留学に対する支援をもっと増やして欲しい。

本学の留学に関する支援制度は(短期留学に関して)いくつかあります。例えば、日本語教育実習のための留学、海外インターシップなどです。学生時代の留学は、日本文化学科の多文化間コミュニケーションコースとしても、とても大切なチャレンジです。学科学生のみなさんに十分に情報が届いていないとすれば、大きな問題ですので、学科内の情報発信のあり方を見直していきたいと思います。昨年度より、こうした声にこたえて、留学説明会等の情報を日本文化学科のツイッターでも発信していますので、ぜひフォローしてみてください。

昨年度後期からは、多文化間コミュニケーションコースの新任教員として奥山貴之先生も着任しています。留学について聞きたいことがあれば奥山先生の研究室を訪ねてみるとよいでしょう。また、本館1Fの「グローバル教育支援センター」では留学情報・支援情報をいつでも閲覧できるよう、パンフレット類を常備しています。また、語学コーディネーターも配備され、皆様の相談にいつでも応じる態勢が整っています。こうした学内施設もぜひ活用してみてください。

## おわりに

今回、授業評価アンケートの「自由記述欄」を通して、皆様のさまざまな意見や要望を知ることができました。同アンケートへの回答は昨年も行いましたが、わずか1年でも学生の皆様の要望には大きな変化があり、この1年で改善された点もあれば、新たな問題として浮上してきたこともあり、改めて、本アンケートの意義を痛感しています。

日本文化学科では、時には皆さんが口うるさく感じるような指導もあるかもしれませんが、お互いに不満はため込まず、自由闊達な意見交換を通して、よりよい学習環境を目指していきたいと思っています。

みなさんの大学生活が充実した実りあるものとなることを、学科教員一同、心から願っています。

(2018年6月4日、文責：日本文化学科学科長 山口真也)